

事業コード	H17-建-新-2		区 分	国庫補助 県単独
事業名	国道特殊改良一種事業費		部局課室名	建設交通部 道路建設課
事業種別	一次改良(現道拡幅)		班 名	調整・企画班 (tel) 018-860-2483
路線名等	一般国道282号		担当課長名	佐藤 紀一
箇所名	鹿角市湯瀬		担当者名	主幹(兼)班長 加賀屋 建一
総合計画との関連	政策コード	U	政 策 名	交流・連携と生活を支える交通基盤の整備
	施策コード	03	施 策 名	地域間交流・連携を支える交通ネットワークの整備
	指標コード	02	施策目標(指標)名	県管理国道改良率

1. 事業の概要

事業期間	H18 ~ H21 (4年)		総事業費	14.4億円	国庫補助率	5.0/10	
事業規模	延長L=980m、幅員(構成)W=6.5(12.0)m、(2.5-1.5-6.5-1.5)m						
事業の立案に至る背景	<p>当該路線は、岩手県盛岡市・秋田県鹿角市・青森県碓ヶ関村を結ぶ幹線道路であり、十和田八幡平国立公園の観光拠点を連絡する観光道路としての機能を有するとともに、各生活圏相互を連絡する生活道路として、また冬期においては安代IC～鹿角八幡平IC間閉鎖時に高速道路の代替えを果たす重要な路線である。しかし当該区間は幅員狭小(W=5m)、急カーブ(R=50m)で歩道も無いため、大型車同士のすれ違いや歩行者の安全に支障をきたしており、積雪時にはその度合いが著しくなっている。</p> <p>第一次緊急輸送道路で唯一の未着手未改良区間であり、広域的な幹線道路として安全で円滑な交通の確保を図るため、新規箇所として要望するものである。</p>						
事業目的	<p>大型車のすれ違い困難箇所の解消(地域づくりの支援)</p> <p>第一次緊急輸送道路としての機能確保(防災・危機管理の充実)</p> <p>高速道路のリダンダンシー強化(安代IC～鹿角八幡平ICの冬期通行止め 約10回/年)</p>						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			全 体	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度以降
	事業費		1,440,000	100,000	380,000	560,000	400,000
	経費 内訳	工事費	884,000		50,000	445,000	389,000
		用補費	452,000	62,000	300,000	90,000	
		その他	104,000	38,000	30,000	25,000	11,000
	財源 内訳	国庫補助	720,000	50,000	190,000	280,000	200,000
		県 債	288,000	20,000	76,000	112,000	80,000
その他							
一般財源		432,000	30,000	114,000	168,000	120,000	
事業内容			詳細設計 用地補償費	用地補償費 改良工	用地補償費 改良工	改良工 舗装工	
調査経緯	<p>平成11年度 概略設計</p> <p>平成14・15年度 予備設計</p>						
上位計画での位置付け	総合計画における施策「地域間交流・連携を支える交通ネットワークの整備」を支援する事業						
関連プロジェクト等	鹿角市公共下水道事業 湯瀬処理区(H17～H23)						
事業を取り巻く情勢の変化	<p>高速道路(東北縦貫自動車道弘前線)の安代IC～鹿角八幡平IC間で年平均約10回の冬期通行止めが発生している。(国道282号に約6,000台/日が転換する)</p> <p>幅員狭小や線形不良により、毎年のように事故が発生している。(事故率153件/億台km)</p>						
事業効率把握の手法	指 標 名	路線整備率					
	指 標 式	整備率(整備済延長/路線実延長)					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無		
	目標値 a	63%		データ等の出典	道路統計年報		
	達成値 b	62%					
達成率 b/a	97%		把握の時期	平成17年 4月			

2. 所管課の1次評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	十和田八幡平の観光道路であり、また地域内における通学路指定路線であるにもかかわらず、幅員狭小・線形不良のうえ歩道も無いことから、大型車のすれ違いが困難であり、地域内の安全が確保されていない。 現道は、事故率も153件/億台kmと高いため早急な改良が必要である。	27 点
緊 急 性	異常気象時通行規制区間(時間雨量30mm、連続雨量100mm)に指定されている。 高速道路(東北縦貫自動車道弘前線)の安代IC~鹿角八幡平IC間において、冬期通行止めが年平均10回程度あり、その度に約6,000台/日の交通量が当該路線に転換されるため、交通リダンダンシーの確保が急がれている。	10 点
有 効 性	道路の防災対策・危機管理の充実 地域づくりの支援 あきた21総合計画の「地域間交流・連携を支える交通ネットワークの整備」で「狭隘箇所の拡幅」として位置づけられている。 鹿角地域計画で「広域観光ルートを形成する道路」として整備を位置づけている。	15 点
効 率 性	事業の費用便益比は1.69であり効率性は高い。 ・総費用の現在価値13.2億円 ・総便益の現在価値22.4億円	27 点
熟 度	鹿角市から、湯瀬温泉地区の改良要望が出されている 湯瀬温泉会より、湯瀬拡幅を含む湯瀬地区の要望が出されている。	10 点
判 定	ランク ()	89 点
	判定ランク であり、事業実施箇所としての優先度は高く、事業を実施すべきである。	
総 合 評 価	選定 改善して選定 保留 評価結果から、事業実施箇所としての優先度は高く、事業を実施すべきである。	

3. 総合政策課長の2次評価

総合評価	選定	改善して選定	保留
当該箇所は生活道路や観光道路としての機能に加え、高速道路の代替機能も果たすが、幅員狭小、急カーブで歩道もなく、大型車同士の通行などに支障を来している。第一次緊急輸送道路で唯一未着手となっている当該区間の拡幅工事を行うものでもあり、事業実施は妥当と判断されるが、歩道の整備については、既存道路の活用など、必要最小限にとどめるべきである。			

4. 財政課長意見

意見内容	選定	改善して選定	保留
当該区間は、大型車を含む通過交通量が多く、第一次緊急輸送道として指定されているが、幅員狭小で当該路線中唯一の未改良区間である。また、歩道もないため、除雪を含む住民の安全確保の面からも事業の実施は妥当なものとする。			

5. 最終評価(新規箇所選定会議)

総合評価	選定	改善して選定	保留
事業の実施は妥当である。			

6. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

当該箇所を国に新規要望する。 事業実施にあたっては、コスト縮減等に努める。
--

7. 公共事業評価専門委員会意見

県の総合評価を可とする。

評価種別 新規箇所評価

事業コード(H17-建-新-2)

適用基準名 道路改築事業(地域間交流・連携促進)

箇所名 (鹿角市湯瀬)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の現状の問題				
	道路構造上の欠陥箇所数	3箇所以上	15	15	2次改築事業については該
	・車道幅員 < 5.5m	2箇所	13		
	・最小半径 < 100m	1箇所	10		
	・最急勾配 > 5%	0箇所	0		
	・冬期堆雪巾なし	5件該当	15		
	道路環境上の欠陥該当項目	4件該当	14		
	・現道の混雑度 1.0	3件該当	13		
	・現道の旅行速度 30km/h	2件該当	12		
	・現道の事故率 50件	1件該当	10		
・通学路指定で歩道なし	該当項目なし	0			
・重大交通事故が発生					
計			30	27	
緊急性	道路をとりまく環境等				
	関連事業の有無	あり	5	5	
	・県の主要プロジェクト	なし	0		
	・地域振興プロジェクト	位置づけあり	5		
	・ほ場整備等の他事業	位置づけなし	0		
	市町村合併支援道路	あり	5		
特有の課題の有無	なし	0			
老朽橋、災害危険箇所、冬期通行不					
計			15	10	
有効性	道路の位置づけ				
	緊急輸送路	第1次輸送路	8	8	
		第2次輸送路	7		
		第3次輸送路	6		
		指定なし	0		
	指定なし	0			
県内90分交通体系、全国1日交通圏等	あり	7	7		
計			0		
			15	15	
効率性	事業の投資効果等				
	費用便益比(B/C)	1.5以上	20	20	
		1.0以上~1.5未満	15		
		1.0未満	0		
	計画交通量	5,000台/日以上	10		
	1,000台/日以上~5,000台日/未満	7			
	1,000台/日未満	0	7		
計			30	27	
熟度	地元の状況				
	地元ニーズ	文書要望あり	4	4	
		口頭要望あり	2		
		要望なし	0		
	地元の協力体制	地元の内諾	3		3
		用地反対	0		
	あり	3	3		
地元への方針説明	あり	3	3		
	なし	0			
計			10	10	
合計			100	89	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		